

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901514		
法人名	有限会社 神居寿々蘭の里		
事業所名	グループホーム 喜		
所在地	旭川市高砂台8丁目3番10号		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、家族様との信頼関係を築き自分の家族と思い、家庭での生活の延長として安心・安全なやすらぎのある生活が送れるよう取り組んでおります。特に利用者の生活状況を毎月「身体の現状と今後の支援」・「通院記録」・「日常生活の様子」にまとめケアマネージャー・各介護員の視点で観察し家族に報告している。又四季折々に家族や地域住民を交えた各種行事を行っており、利用者との交流や家族同士の交流を深めている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901514&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台の自然豊かな場所に建つグループホームです。近くの桜の木に囲まれた池は、利用者の良い散歩コースになっています。農園で野菜を栽培し、収穫した野菜を使った料理が食卓に上がることが、利用者の楽しみとなっています。建物はホテルを改造したものであり、居室、共有空間ともに広々としています。地域住民の方々が、ホームの行事に参加して頂いたり、ボランティアで頻繁にホームを訪れるなど、地域との繋がりが深いホームです。また行事の際は、家族会が積極的に協力して頂いていること、ホームから家族への報告が密であることなど、ホームと家族との繋がりが良好です。更に、かかりつけ医への受診の際は、職員が送迎や付き添いをするなど、利用者の思いや意向に沿った個別のケアを大切にしています。職員同士の連携が良く、資格取得や研修などの自己研鑽に熱心に取り組んでおり、専門職としての高い意識を持って、日々明るく穏やかに利用者に接していることが、利用者の笑顔に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づき地域の皆様との交流を大切にをモットーに職員が一丸となって取り組んでいる。	地域密着を意識して理念を見直し、地域との交流を深めています。管理者は、折に触れ理念に基づいたケアについて職員に話をし、全職員で理念を共有し、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所の行事に参加していただくのはもとより地域の行事にも積極的に参加している。	ホームの行事の際は、地域住民の方々にビラを配布して呼びかけ、多数の参加を得ています。またボランティアで頻繁にホームを訪れています。(麻雀・カラオケなど)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症に関する理解を深めてもらう取り組みを行っている(資料配布・説明)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を施設行事に合わせて開催し積極的に意見を取り入れて施設の運営に反映している	利用者、家族、職員、町内会長、民生委員等が参加し、外部評価や防災体制についても議題となっています。参加者からの意見や要望には速やかに対応しています。	これまで包括支援センター等の参加がありませんでしたが、4月以降は、市が運営推進会議に参加する予定です。今後も参加メンバーが、より多彩になるよう工夫するなど、運営推進会議が、活発で充実したものとなるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当部署とは常に連携を密にし、情報の交換を行っている	保護課、介護高齢課を中心に市の担当者と情報交換を行い、連携してサービスの質向上に取り組んでいます。介護保険の認定区分の変更等について助言、指導を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については入所時に家族との話し合いの中で合意をいただいている。その他については身体拘束廃止検討委員会で検討し、対応している。	職員会議で身体拘束について取り上げ、外部研修にも参加し、身体拘束についての正しい理解と身体拘束のないケアに取り組んでいます。外出傾向のある利用者に対しては無理に止めず、職員が付き添って外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いに注意し合い防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	旭川GHケア研究会での研修を参考にし身上監護や財産管理には注意を払っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時にある程度の説明をし、契約締結時に詳しく説明を行い理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者様の近況を報告、又家族会・各種行事の参加時に意見要望をいただいている	家族会があり、職員は家族の来訪時に声かけし、意見や要望の吸い上げに努めています。職員手書きの近況報告の送付等、家族への連絡・報告も密に行われています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末に職員会議を開催し意見を徴収し運営に反映している	職員は嬉しかったこと、困っていること等を用紙に書き提出しています。職員の意見をきっかけに資格の取得、研修への参加、同業者との交流等に積極的に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて、配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に積極的に参加できる様、勤務体制等に配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭川GHケア研究会や神居地区のGH研究会又複数事業所連携事業者等と交流を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の経歴や生活歴を細かく知ることで、コミュニケーションを取りいかに早く信頼関係を築くか努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係はどれだけこまめに利用者様の情報を伝え要望を聞く対応が出来るかだと考える		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様が必要とする支援をスタッフ・医師・訪問看護師と家族で話し合い対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合いながら生活していることを意識し、信頼できる関係を築く事に心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族の一員であるとの考えを常に持ち家族との関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとよりこれまで交流のあった方への各種行事にも参加を呼び掛けている	墓参り等には、家族対応で出かけています。ホームの行事では、多数の家族の参加を得ています。また利用者の昔からの友人、知人が、ホームを訪れることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気楽に話し合える様に配慮している（席替え・レクリエーション）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされた家族であっても施設の各種行事への参加の呼びかけを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いをせず思いや意向を把握し、意思疎通が困難なときは家族から情報の提供を頂いている	家族からも情報を得ながら、思いや意向を把握し、生活のリズムやその日の過ごし方の希望に沿った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人との会話を十分に行うことはもとより家族からも情報を頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方のリズムを早く把握するためにこれまでの生活状況を関係者から聞き取り調査を行う		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況を職員全員で調査し家族の意向を聞き入れ全員で話し合い現状に即した計画作成に努めている	個別生活記録・ケアチェック表を利用してモニタリングを行い、職員の情報や意見を出し合い、介護計画を作成しています。介護計画は、状況の変化に応じて随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については個人ファイルに記録し、特記事項については朝の申し送りや報告し情報の共有を図り介護に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の立地条件や広さを生かしたサービスの提供に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恵まれた生活環境を有効に活用し安全に安心して日常生活を送れるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの病院や主治医との関わりを密にして気軽に相談できる関係作りに努めている	かかりつけ医への受診が可能となっています。協力医療機関による定期往診や訪問看護が行われ、夜間の急変時に対処可能な体制が整っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護体制を採用しており週1回の訪問と24時間体制での相談対応で適切な支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通しての入院であり病院の関係者との関わりは非常に良好でどんな事でも相談できる状況にある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に終末医療について十分話し合いをしており施設で出来る範囲を確認している	入居時に、重度化や終末期に向けた方針について家族に説明し、段階に応じて家族や医療関係者と相談しながら進めています。書式化した指針や同意書は特に用意していません。	重度化や終末期に向けた方針は、利用契約書の中で触れておりますが、ホームが、どこまで対応可能か等に対する明文化された指針及び同意書を準備することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の訪問看護ステーションの活用や職場内研修を行い万々に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害時の避難訓練を度々行ない無意識に体が反応する様にしている。又地域にも協力体制をお願いしている	夜間想定避難訓練も行い、実際に利用者も避難し、地域住民の方々の参加も得ています。町内との協力体制、ホーム内での自主防災組織体制も整っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々人の性格を十分に理解し、お互いにコミュニケーションを取り合える関係作りに努めている	職員同士が注意し合い、誇りやプライバシーを損なうような言葉かけや対応をしないよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者としやすい関係作りに努め自己表現できる様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべて利用者側に立った介護を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に沿った身だしなみを心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を収穫したり調理しながら季節感を十分に味わってもらえる様に協力している	旬の物や季節の行事を意識しながら、身体状況に応じた食事を提供しています。利用者も一緒に準備や片づけ等を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常の食事量や水分量については把握しており必要に応じて対応している。栄養バランスについても主治医と相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のうがいや義歯洗浄を食後に行ない常に汚れや匂いが生じないように支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄リズムを知ることにより、トイレでの排泄がスムーズに出来るように又自立排泄に向けた努力を行っている	チェックシートで排泄パターンを把握し、時間毎に声かけし、出来るだけトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ便秘等をしない様に食物に注意するのはもとより適度な運動に心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回と決めているが体調や気温、通院等の状況を考慮して対応している	週2回を目途に希望に沿った入浴支援をしています。入浴を拒む利用者には、シャワー浴等の対応をしています。また入浴の順番もローテーションを組み配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて昼間の活動をセーブしているが寝付けない時には、職員がしばらく話し相手になるなどの支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の服薬状況を共有し、直接口に入れる等の対応を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を熟知し、日常生活の中でそれを活用し、手伝いや遊び等に活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺の散歩や近隣の公園にも出かけている	ホーム周辺は自然が豊かで、良い散歩コースとなっており、商店も近くにあり。散歩や買い物等、日常の個別の外出の他、農園での収穫など、大勢での外出レクリエーションも数多く計画されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品の出張販売で自らが買物をしていただいている、出来ない人には職員が対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力で電話を設置し、家族との絆を大切にしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋からの眺望は市内が一望でき、四季折々の景観が楽しめる又食堂や娯楽室は入居者同士の交流の場として安心して過ごせるように工夫している	ホテルを改装したホームであるため、廊下、居間、食堂、浴室など、全てが広々としており使いやすくなっています。ホーム内は、行事の際の写真や絵画等が飾られ、明るい雰囲気となっています。音や光、臭い等にも配慮がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室・喫煙室・談話室を活用して気分転換が出来るよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の広さを活用し自分なりに好きな様に家具を配置したりして居心地の良い空間づくりをしている	居室は広く、利用者はそれぞれ使い慣れた家具や仏壇、好みの生活用品、思い出の品等を自由に持ち込み、居心地良く安心できる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全てに手すりを設置し自由に安全に行動できるように配慮している		